

# 科学研究推進WG

児玉 利忠

## (1) 活動記録

本WGのおもな目的は科学研究費補助金（奨励研究）へ応募し、採択されることを勧め、技術職員としての研究活動を奨励することである。そのためのおもな活動として希望者に対する応募書類の事前チェックを行っている。

本年度から、学長裁量経費の「科学研究費助成事業の採択に繋がる事業」が廃止され、奨励研究への応募・採択に対するモチベーション低下が懸念されるなか、例年通り研究計画を立てるための昨年度本学技術部の採択された研究計画調書のサンプルおよび資料の配布、応募要領の変更点や応募書類作成上の注意点を要約した資料の配布を行った。さらに本学研究協力課が行う事前チェックで用いているチェックリストを技術部に手を加えたものを配布し、応募直前にセルフチェックしてもらい記入要領等の間違いを減らすようにしている。

以下に活動の概略と連絡会の議事概要を記す。

## 活動概略

- 4月 4日 平成26年度科学研究費補助金（奨励研究）の内定者についてメール通知
- 4月21日 平成26年度科学研究費補助金奨励研究採択者に配分額および応募書類のサンプル提供についてメール依頼
- 6月10日 不採択者の審査結果についてメールによる問合せ
- 8月 1日 平成26年度の応募に向けた応募書類のサンプル・研究計画の書き方資料等のメール配信
- 8月19日 学長裁量経費「科学研究助成事業の採択につながる事業」の廃止についてメール通知
- 10月 2日 平成27年度科研費（奨励研究）の公募について日本学術振興会のHP開設をメール通知
- 10月 6日 平成27年度科研費（奨励研究）の公募について研究協力課のHP開設をメール通知
- 10月10日 平成27年度の応募スケジュール、相談会、事前チェックについてメール通知  
平成26年度採択者の応募書類をサンプルとしてメール配信
- 10月27日 応募書類の提出方法、応募書類の変更・注意点をメール通知  
技術部用セルフチェックシートをメール配布  
応募書類作成上の注意点兼サンプル（研究計画調書・応募カード）をメール配布
- 11月 4日～17日 応募書類の事前チェック
  - 11月 4日 事前チェック受付開始
  - 11月11日 事前チェック受付締切り
  - 11月17日 事前チェック後返却完了
- 11月10日 研究協力課の応募書類チェックについてメール通知
  - 11月10日～14日 研究協力課の応募書類チェック期間
- 11月25日 応募書類の技術部内提出締切り
- 11月25日 研究協力課にまとめて提出（午後2時）

## 連絡会議事概要

- 10月 9日 第1回連絡会
  - ・奨励研究審査結果について報告
  - ・学長裁量経費「科学研究費助成事業の採択に繋がる事業」の廃止について
  - ・応募書類作成のためのサンプルについて

- ・スケジュールについて  
(変更点洗い出し作業、サンプル等の配信、事前チェック、相談会など)
- ・事前チェックに必要な知識として研究計画の書き方についての資料をWG委員に配布

#### 10月23日 第2回連絡会

- ・奨励研究採択件数の推移(10月10日公表)について報告
- ・計画調書・応募カード・依頼書の記入要領変更点の洗い出し作業と検討
- ・応募書類作成上の注意事項についての検討・確認
- ・応募に関する活動日程の決定
- ・相談会について(申込者なしのため中止)
- ・研究協力課のチェックリストを技術部向けに追加・変更する箇所の検討
- ・チェックリストは技術部全員に配布するがセルフチェック用とし、提出不要とする
- ・事前チェックに関する申し合わせについて確認
- ・事前チェック方法および受付期間の決定
- ・事前チェックに必要な知識として「採択される科研費申請ノウハウ」の要約をWG委員に配布

#### 12月4日 第3回連絡会

- ・応募状況の報告
- ・研究協力課(坂本課員)への奨励研究応募に関する要望等問い合わせとその回答の報告
- ・事前チェックにおける問題点や注意点などについての報告

### (2) 活動成果

応募書類の事前チェックについては多くの人の考えを参考にしてもらうことを目的として、1件の応募書類に対して3名の委員がそれぞれチェックを行う体制を取っている。ただし本年度も、嘱託職員の奥林氏には自身が応募しないこと、また多数の採択実績もあることから依頼のあった応募書類すべてのチェックをお願いした。実際の事前チェック依頼件数は前年度8件に対し5件であった。応募件数は29件から28件へ、応募率は79.4%から82.4%へ微増、採択件数は前年を下回る2件であった。

平成26年度科研費奨励研究 採択2件、不採択27件(内訳 A判定6件、B判定12件、C判定9件)

氏名	課題名(課題番号)	交付金額(千円)	応募専門分野	技術部所属
甲斐 照高	マイクロバブルを混入させた高速衝突水噴流による壁面洗浄に関する研究(26917005)	500	理工系・工学I(機械系)	機械・エネルギー工学系 第二技術班 班長
嶋田 不美生	低温差スターリングエンジン試作による実践的「ものづくり教育」の試行(26917016)	600	理工系・工学I(機械系)	機械・エネルギー工学系 第一技術班 班長 (現)総括技術長

### (3) 今後の展望

科研費奨励研究の応募件数を増やすことは重要であるが、定年退職による嘱託職員の増加を考えると、応募件数を増やすことは見込めない。さらに要望のない(応募件数の少ない)ところの予算(科研費補助金)は容赦なく削られ、採択件数を増やすのはさらに難しくなる。このような状況を考えると採択件数を維持しながら、僅かでも増やしていけるように取り組んでいく必要がある。そのためには、研究計画調書における課題名の選定や研究計画の記述内容の向上を図るための資料等を充実させていくことも重要であると思われる。